

..... 目次 .....

・学習方法の工夫次第で合格できます

・最初に学習終了日を決めて下さい

・基礎だけの家に住めると思いませんか？

・合格に必要な基礎以外の知識の見つけ方は？

・覚えたら忘れない、忘れる前に復習するのは当たり前  
合格できる長期記憶勉強法がコレ！！

・絶対に合格できる徹底復習の具体的方法がコレ！

※ お求めはこちらのサイトからお願いします。



社労士試験 6 か月で合格/短期記憶学習/驚速 (imai-academy.net)

# 学習方法の工夫次第で合格できます

こんにちは。社会保険労務士講座の講師の井真井と申します。

これから社会保険労務士を目指す皆さんが、まず、クリアしなければいけないことは、試験に合格することです。私は平成 18 年度試験で合格しました。当時の合格率は 8.5%でした。

そして、社会保険労務士として開業した平成 19 年には、労使間における労働関係の紛争において、裁判外紛争解決手続制度(＝特約 ADR)に則った代理業務に従事できる特定社会保険労務士制度が創設されました。

当時は 60 万円以下の少額訴訟に関する代理業務に限定されていましたが、平成 27 年 4 月施行の社会保険労務士法の改正によって、社会保険労務士の業務と責任範囲が以下のように大きく拡大しました。

- ① 厚生労働大臣が指定する団体が行う個別労働関係紛争に関する民間紛争解決手続において、特定社会保険労務士が単独で紛争の当事者を代理することができる紛争の目的の価額の上限が 120 万円に引き上げられました。
- ② 社会保険労務士は、事業における労務管理その他の労働に関する事項及び労働社会保険諸法令に基づく社会保険に関する事項について、裁判所において、補佐人として、弁護士である訴訟代理人とともに出頭し、陳述をすることができることとなりました。
- ③ 社員一人の社会保険労務士法人の設立が可能となりました。

この社労士法改正は、社会保険労務士試験にも大きな影響を与えています。

施行後、難易度が急激に上がり、合格率が急激に下がりました。(従前は 10%前後の合格率でした)

- ・平成 27 年度試験の合格率⇒ 2.6%
- ・平成 28 年度試験の合格率⇒ 4.4%
- ・平成 29 年度試験の合格率⇒ 6.8%
- ・平成 30 年度試験の合格率⇒ 6.3%
- ・令和元年度試験の合格率⇒ 6.6%
- ・令和 2 年度試験の合格率⇒ 6.4%
- ・令和 3 年度試験の合格率⇒ 7.9%
- ・令和 4 年度試験の合格率⇒ 5.3%

試験実施機関である全国社会保険労務士連合会は、司法書士レベル以上の人材確保を目標としています。もはや、社会保険労務士試験に市販教材を使って、独学合格することは不可能な時代です！！

もちろん、東大や京大に余裕で合格できるようなズバ抜けた頭脳の持ち主の方なら独学合格の可能性もゼロではありませんが、それは極めて限られた少数の人にしか、当てはまりません。

そして、この世に溢れる社会保険労務士教材のテキストは、書店に並んでいるもの、通信教材で販売しているもの、通学資格スクールで利用されているものも含め、中身は「**すべてが基礎知識**」に過ぎません。

合格率 7%未満になった社会保険労務士試験に**基礎知識だけで合格することは不可能**です！！  
一般の受験者の目には、通常、触れられないような資料からの出題も近年は増えています。

例えば、有名な労働基準法第 36 条に関する協定については、どこの出版社のテキストにも、以下のような内容が記載されます。

「使用者は、当該事業場に、労働者の過半数で組織する労働組合がある場合においてはその労働組合、労働者の過半数で組織する労働組合がない場合においては労働者の過半数を代表する者との書面による協定をし、厚生労働省令で定めるところによりこれを行政官庁に届け出た場合においては、第 32 条から第 32 条の 5 まで若しくは第 40 条の労働時間又は休日に関する規定にかかわらず、その協定で定めるところによって労働時間を延長し、又は休日に労働させることができる。当該協定においては、**対象期間における 1 日、1 箇月及び 1 年のそれぞれの期間について**労働時間を延長して労働させることができる時間又は労働させることができる休日の日数を**定めるものとする。**」

では、第 32 条の 3（フレックスタイム制）について、以下のような問題が出たら、正解ですか？それとも間違いですか？

（問題）

「フレックスタイム制を採用した場合には、清算期間における総労働時間の範囲内で、日ごとの労働時間については労働者自らの決定に委ねられる。したがって、フレックスタイム制においては、清算期間を単位として時間外労働を判断することになるので、36 協定において「1 日」の延長時間について協定する必要はなく、「1 か月」「1 年」の延長時間を協定すれば足りる。」

答えは「正解」です。

ですが、このような内容は労働基準法条文の中に記載されていません。  
政府公表の資料の中に見ることができます。

本番試験で出題される可能性が高いのは基礎知識ではなく、圧倒的にこのような知識・情報になります。  
**ライバルよりも一つでも多くの重要資料に目を通さなければ合格することはできません。**

試験日までに基本 10 科目の基礎学習だけ完了すれば良いと考えているようでは、到底、合格できないのです。

どの出版者のテキストも、基礎内容しか掲載されていません。一方、**弊社の教材は合格のみを目的として作成**されています。ですので、他社では提供しないような「**本当に試験に使える資料をご提供**」いたします。

弊社がご案内する基礎以外の資料にも時間が許す限り、目を通して下さい。

試験では重箱の隅をつつくようなマイナーな事項について出題されることがあります。弊社提供資料に軽く目を通すだけで、あなたの成績は大きく向上するはずです。

あなたが、まず考えるべきことは、

**基礎知識から 1 日でも早く卒業することが合格の秘訣……**だということです！！

複数年受験者は、既に基礎学習を終えています。これから勉強を開始する方は、複数年受験者の有する知識レベルに追いつくことが最優先です。また、複数年受験者は、次のステップに移行すべきです。

合格率が低くなったといっても、試験の難易度が急激に上昇したわけではありません。

社会保険労務士試験は単純暗記試験ですので、**ある程度の時間**をかけ、しっかり**暗記**すれば、**どなたでも合格できます**。早期開始した人のほうが圧倒的に有利です。

そして、重要なのは、何を、どのように覚えるか……なのです。

設問の文章読解力が合格には必要です。どんなに豊富な知識を有しても、設問内容を正しく解釈できなければいけません。もし、あなたが壁にぶつかった時は、ご遠慮なく弊社にご質問して下さい。何度でも無料でご質問することができます。独学では到底、気づけなかったことも、たくさん、気づくことができます。

**すべての自信は過去の経験からしか、得られません！！**

経験値が高い人ほどピンチを乗り越える術を知っています。たくさんの種類の問題を解き、正解を導き出すためのポイントを理解することで経験値が上がります。その結果、自然と**文章読解力**も身につけてきます。

例えば、国民年金法には「20 歳前傷病による障害基礎年金」という制度があります。

年金は老齢基礎年金ではありません。65 歳未満の方も大きな障害を負った場合には、年金がもらえます。

国民年金の被保険者は 20 歳以上 60 歳未満の方です。ですが、20 歳前に負った障害であっても、20 歳に達した時に障害等級 1 級、2 級であれば、障害基礎年金の受給権を得ることができます。初めて医師等の診断を受けた日から 1 年 6 ヶ月経過時の障害状態によって 1 級または 2 級に該当するかが判断されます。障害状態が確定する日を障害認定日といいます。

ここまでの、誰でも学ぶ**基礎知識**です。では、実際の試験に出題された以下の問題を解いてみてください。

(問題)

「被保険者でなかった 19 歳の時に初めて医療機関で診察を受け、うつ病と診断され、継続して治療している令和元年 4 月 11 日現在 25 歳の者は、20 歳に達した日の障害状態が障害等級 1 級又は 2 級に該当していれば、その日に 20 歳前傷病による障害基礎年金の受給権を発生する。」

どうでしょうか？19歳の時が初診日であるならば、障害認定日はその1年6ヵ月後なので、どんなに早くても20歳と6ヵ月経過日以後となります。20歳の時の状態が1級、2級相当であっても、障害認定日に障害等級が確定するまでは、障害基礎年金の受給権は発生しません。よって、この問題は「間違い」といえます。

こういう解釈が当たり前のようにできるようになるためには、弊社を学習パートナーにすべきです！！

## 最初に学習終了日を決めて下さい

「1日、だいたい何時間ぐらい勉強すれば合格できますか？」

・・・といったご質問を受けることがあります、それを知っているのは、「質問されたあなただけ」です。

会ったことも、一緒に学んだことも、仕事をしたことも無い人の能力などわかりません！！

大学を卒業している人でも、偏差値40台から80台まで、幅広い能力差が学校によってあります。

個人能力差が当然ありますので、優秀な人なら1時間で10ページ終わるところ、1時間かけても2ページ程度の内容しか覚えられない人もいます。

このような人は、5時間かけなければ、優秀な人の履修範囲に追いつけません。

全員が試験という同じ土俵で戦うわけですから、自分の能力に応じたマイペースの学習では先頭集団に入ることができない場合もあります。

それぞれが自分の能力を知り、その能力に適した勉強時間を見つけ出さなければいけません。

ですが、試験日は決まっています。

その試験日までには、ライバル達と互角に戦える知識と情報を習得する必要があります。これを実現する方法は、**学習終了日を決めて、1日の学習範囲を決める**ことです。

例えば、最初の「労働基準法」はテキストが67ページ、1問1答式が515問あります。

この科目の履修を10日で完了するなら、テキストは1日7ページ、問題は1日60問はやらなければ終わりません。

【〇月〇日までに完了】と決め、その日までに完了するために必要な**1日の範囲**を決めて下さい。

その範囲の履修に2時間かかるのか、3時間かかるのか、それ以上かかるのかは、あなたの能力次第で決まります。ですが、**必ず決めた範囲をクリア**していくことが必要です。

1日の学習を「時間」で決めてしまうと、あなた自身の能力によっては、試験日までには全科目の完全履修が間に合わなくなる可能性が生じます。日々の学習計画は時間ではなく、「範囲」で決定して下さい。

ですが、最初から無理した計画を立てると、計画倒れになる可能性が高くなります。最初は無理のない達成可能な範囲で計画を立てて下さい。

毎日、勉強を続けるということが、とても大切なのです。

そのためには、**決まった時間に机に向かうという習慣を身につける**ことが何よりも大切です。

この段階で合否が決まってしまうと言っても過言ではありません。

同じ時間に机に向かわないと不快感や精神不安が生じるくらいになれば、習慣付けされたことになります。とにかく、休み無く毎日、続けてください。

社会保険労務士試験の勉強で学ぶ内容は、普段、私たちが日常生活の中では触れることのない内容です。そのため、すべての情報が脳の短期記憶領域に記憶されます。

この領域に収まる知識や情報は、数秒、数分、数時間のうちに消えていきます。生きる上で必要のない知識・情報を脳は不要と判断し、消し去ってしまうのです。

想像してみてください。あなたが皮や布の大型裁断機の前に連れてこられ、上司から、「この裁断機のこの場所には、絶対に手を置かないでくださいね。一気に機械で指が切断されてしまいますから」と、言われたとします。

このような命に関わる情報や恐怖は、すぐに長期記憶領域に伝達され、長い間、忘れることはありません。

私たちの脳は、命や日常生活に関わる恐怖や不安を生じさせる知識や情報については、忘れないメカニズムになっているのです。つまり、**嫌な記憶ほど長く維持できるしくみ**になっているのです。

この脳のメカニズムを利用しない手はありません。

例えば、労働基準法は労働に関する使用者と労働者との間における共通のルールブックです。ルールに反する行為は違法です。

あなたは労働者として雇用されました。雇用される時は労働契約書が交わされ、そこには細かく労働条件が記載されています。そこには自分が想像していた以上の厳しい条件が書かれていました。果たして、こんな条件が許されるのか、あなたは疑問に感じました。でも、何十社も就職活動し、やっと採用してもらえた会社です。

この労働条件が果たして違法なのか、違法なのか、あなたは気になって仕方がありません。

- ・就業規則はどうなっているのか？
- ・36 協定はどうなっているのか？
- ・所定労働時間は法定労働時間内なのか？
- ・残業や休日出勤時の割増賃金はいくらもらえるのか？

- ・試用期間が、ちょっと長すぎないか？
- ・年間の休日が少なすぎないか？
- ・1年単位の変形労働時間制って何？
- ・育児休暇とか年次有給休暇はもらえるのか？
- ・賞与のしくみはどうなっているのか？
- ・退職金制度はどうなっているのか？

## 自分の身に降りかかろうとしている「不幸の種」を取り除きたい！！

・・・と思える人は、真剣です。

これから自分の将来はどうなるのだろうか？という不安と恐怖に襲われたあなたは、一生懸命、法律を調べ、自分に提示された労働条件と照らし合わせるはずです。

このような状況下で調べた知識・情報はあなたの生命・生活に関わる重要要素となるため、脳は危険信号を発し、**長期記憶領域**に伝達します。

そうしますと、長い間、記憶し続けることができるのです。

社会保険労務士試験の勉強で一番、多くの受験者が抱えている悩みって何だか、知っていますか？  
それは、**覚えるべき知識・情報が多すぎて、せっかく覚えても、少し時間が空くと、覚えたことを忘れてしまう**  
・・・ということなのです。

完全に記憶から消えたら、覚えるのに要した時間は、無駄に過ごした時間ということになります。  
勉強しなかったことに等しくなるのです。この繰り返しでは、絶対に合格などできません。

合格するコツは、覚えたことを長く記憶に留め、忘れてしまう前に復習して記憶を蘇らせることです。  
そして、長く記憶に留めるためには、

## すべての事項を**不幸な自分の身**に置き換えてイメージ化することです。

会社からひどい扱いをされている自分をイメージして下さい。ひどい労働条件を提示され、過酷な労働を強いられ、心身ともにボロボロになり、その結果、業務中に大怪我をしてしまい、もう、そんな会社が嫌になり、離職した。

以上の状況だけで、労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、雇用保険法という4つの法律が関わってきます。自分の置かれた不幸な状況に対し、あなたは絶対に興味を抱くはずですよ。

## **不幸な自分の身**に興味を抱けば、本気で知識・情報を欲するはずですよ。

興味を抱けば、学ぶことに対して飽きがきません。興味・感心は継続学習の助けとなります。

勉強が続かない人、興味が湧かない人、記憶が長く続かない人というのは、結局、他人事だと思っているからなのです。

現在、または過去に一度でも会社の労働環境に不満を抱いたことがある人なら、容易に自分の問題として捉えることができるはずです。それができない人は、ある意味、幸せな労働環境に恵まれた人なのかもしれません。

ですが、社会保険労務士試験に合格できる人の大半が、自分の労働環境に不満を抱いている人たちです。

## 基礎だけの家に住めると思いませんか？

社会保険労務士試験に合格するためには、完成した一軒家を建てるイメージをして下さい。なるべく大きく立派な家を建てた人だけが、合格者です。建物とは土台、柱、壁、屋根があって初めて「建物」と認められます。

基礎知識は、建物の基礎＝土台部分に該当します。この基礎部分が堅牢であり、大きくなければ、多くの柱、壁、装飾、屋根を乗せていくことはできません。すべての部材を基礎が支え、すべての部材は基礎につながっています。



ですが、どんなに立派な基礎があっても、基礎部分だけでは住むことはできません！！

柱、壁、屋根が無ければ雨風をしのぐことはできないからです。

社会保険労務士試験に合格するために基礎知識は必須です。ですが、基礎知識だけでは絶対に合格することはできません。何回、基礎部分の修繕（＝基礎知識の復習）を繰り返したところで、それは家としての体を成していませんから、突風、雷雨、降雪などのような難問、難題に対処できないのです。

**あなたが学ぶべき、本当に必要な知識は、**

**基礎（土台）よりも上の部分なのです！**

この世に存在する社会保険労務士試験用テキスト(参考書籍)には、基礎知識しか記載されていません。よって、テキストを丸暗記したところで合格はできないのです。

テキスト中心学習から脱却できない人は、何年、何十年かかっても合格できません。

基礎は堅牢かつ大きければ大きいほど良いですが、一刻も早く基礎部分を完成させ、難問、難題に対処できる真の力である「**応用力**」をライバルよりも一つでも多く身につけることが、合格の秘訣です。

## 合格に必要な基礎以外の知識の見つけ方は？

効率的な勉強には順番があります。

まず、基礎知識の習得です。テキストをざっと見渡し、制度概要を掴みます。  
それと同時に問題集に着手します。

テキストの履修が完了してから、問題集に着手しようとする人がいますが、それはダメな勉強法です。また、問題を解く毎に、その内容がテキストのどこに記載されているか照合しようとする人がいますが、これはもっとダメな勉強法です。

試験では、条文やテキストに記載されている文言がそのまま出題されるわけではありません。いくつかの条文を重ね合わせた文章で出題されることもあれば、具体的な「一つの事例」として出題されることもあります。また、テキストや条文には全く記載されていない事項が出題されることもあります。

行政機関は施行令、省令、告示、通達というかたちで、法律条文の実務的補足事項を発しています。これらは、過去に遡れば、膨大な量があり、また、改正、訂正を何度も重ねています。これらの全てに精通するのは、法学研究者でも容易なことではありません。

社会保険労務士試験で満点(=パーフェクト)を目標に掲げるのは志が高くて良いことですが、実際のところ、満点を出せる人など皆無に等しいです。一部の優秀な人材確保のための試験ですので、9割以上の人を不合格にさせるために、試験実施機関は、受験者が絶対に解けないであろう問題をいくつか含めて問題を作成しています。

これにより平均点が一律に下がります。優秀な人たちは他の問題については、しっかり正解を重ね、なんとか踏みとどまりますが、そうでない人は、解ける問題もボロボロと落とし、徐々に脱落していきます。

では、優秀な人たちは、どうして、踏みとどまることができるのでしょうか？

もちろん、豊富な知識や情報を有しているからに他なりませんが、彼らは試験に出題されるであろう問題やテーマをある程度、絞って、それに肉付けするように関連資料等を使い、補足的知識を吸収しているからなのです！！

その絞り方は、過去の出題データが参考となります。つまり、**過去問の徹底**です。

過去に出題されたことがあるテーマは、少なくとも試験において、未来の社会保険労務士に知っておいて欲しいと期待する知識・情報になります。

もし、あなたが社会保険労務士になってから、難題にぶつかったら、どう対処すべきか知っていますか？

・・・と、試験では問われます。

実務経験を有していれば、試験合格と同時に全国社会保険労務士連合会に登録し、すぐに開業し、社会保険労務士として客前に出て行けるのですから、合格証を渡す国にも重大な責任があるわけです。

社会保険労務士に相談する客は、**全員、何かしらの悩みを抱えています**。

客の悩み相談に対応できる知識が問われます。問われる可能性がある課題は膨大です。労働基準法をはじめとした労働関連法規の他、健康保険法、年金制度などの社会保障関連法規からも問われます。

社会保険労務士が取り扱う法律は、実に 50 以上にのぼると言われています。

そのうち、中心となる法律は 8 つ。

1. 労働基準法
2. 労働安全衛生法
3. 労働者災害補償保険法
4. 雇用保険法
5. 労働保険徴収法
6. 健康保険法
7. 国民年金法
8. 厚生年金保険法

これらの他にも施行規則や施行令などの実務法規が合わせて出題範囲とされます。ですので、覚えるべき知識や情報は膨大です。その中でも本当に必要だという知識は、**過去問を中心に把握するしかない**のです。

社会保険労務士試験が開始された 1969 年から 2019 年までの 51 年間(半世紀以上)に渡る歴史の中で、社会保険労務士に求められる知識は、ほぼ決まっています。**過去の試験で問われたことが中核的な必須事項**であり、その中核となる内容を知らない人には、永遠に合格できる日はやってきません！！

社会保険労務士試験の **7 割は、過去に出題された問題の焼き直し**です。ですが、全く同じ設問が出題されることはありません。言葉の並び順を変え、設定条件を変え、言葉そのものを変えてきます。

以下の 3 つの問題は、正しいですか？間違っていますか？

- ・老齢厚生年金の支給繰下げの申出は、老齢基礎年金の支給繰下げの申出と同時にやる必要はない。
- ・老齢厚生年金の支給繰下げの申出は、老齢基礎年金の支給繰下げの申出と時期を異にしても良いとされる。
- ・老齢厚生年金の支給繰下げの申出は、老齢基礎年金の支給繰下げの申出と同時にやっても良い。

上記3つはすべて正しいです。すべて同じ内容に関する問題だと、気づけなければいけないのです。

## 覚えたら忘れない、忘れる前に復習するのは当たり前 合格できる長期記憶勉強法がコレ！！

社会保険労務士の勉強における受験者共通の悩みが、「記憶」が続かないということです。  
非日常的な知識・情報について脳は拒否反応を示し、早期に記憶領域から消去しようとします。

暗記しなければいけない知識・情報が次から次へと消えていき、せっかく苦労して覚えても、時間の経過と共に忘れ去られていきます。それを食い止めるには、**復習**しかありませんが、この復習計画に失敗する人が9割以上を占めています。

つまり、合格できない人は全員、復習計画の失敗者なのです。

**記憶**とは、「**記録⇒保持⇒想起**」の一連の流れです。

新しく覚えたことを、脳内に保持し、必要に応じて想起できなければ、記憶したことになりません。

例えば、あなたの身内が会社での業務遂行中に三階部分から転落し、大怪我をして救急車で運ばれました。  
すぐに緊急手術を受け、何とか一命を取り留めましたが、意識が戻らず、そのまま入院することに。

このような場合、労働基準法の災害補償、労働者災害補償保険法の休業補償給付、療養補償給付の適用対象となりますが、それらの補償はいったいどのような内容なのでしょうか？

・・・と、聞かれた時に、すぐに支給要件や補償される金額等について説明できなければ、「知識を記憶できている」とは言えません。想起できない記憶は、記憶ではないのです。

新しいことを覚えたら、家族でも壁に向かってでも構いません。口に出して、説明してみてください。

社会保険労務士は公的年金保険のコンサルタントなので、クライアントから質問されたら、口頭説明できなければいけません。口頭説明には、記憶された知識の想起が必ず伴いますので、これができるかどうかで、自分の知識量を推し量ることができます。

そして、口頭説明するということは**メタ認知**に通じます。

**メタ認知**とは自分自身を客観的に認知する能力のことです。もう少し簡単に説明するならば、自分が仕事をできているのか、できていないのか、どんなことが得意であり、どんなことが苦手なのかといったことを、客観的に捉えることを言います。

試験勉強に置き換えれば、客観的に自分が得意とする箇所、苦手とする箇所を認知することです。不合格者の全員が、やりっぱなし勉強なのです。故に合格できないのです。

どんなに知識を詰め込んでも、詰め込んだだけで、必要な時に必要な情報をすぐに取り出せないようでは、意味がありません。

季節に応じて棚や引き出しを分けて洋服を収納するように、知識も上手に整理し、記憶想起が迅速にできる態勢を常に整えておかなければいけません。

つまり、容易に記憶想起するためには、以下の3つが必要なのです。

- **仕分けの徹底一なるべく小分けして収納すること**
- **新たに積み重ねる際は、下敷きとなるものにも目を配ること**
- **定期的に収納されている在処を確認すること**

夏物一式、冬物一式という分類で服を積み重ねてしまうと、下のほうに位置している服を取り出すのは容易ではありませんし、いつしか、その存在は忘れ去られます。

ですので、夏物でも ①Tシャツ類 ②ポロシャツ類 ③下着類 ④シャツ類 ⑤パジャマ類……といったように小分け収納しておいたほうが、必要なものを見つけるのが簡単です。

同じように知識も ①休業に関する給付 ②障害に関する給付 ③老齢に関する給付 ④死亡に関する給付……といったように、分類して整理すべきなのです。1つの法律体系で記憶するより遙かにメタ認知度が上がります。

社会保険労務士試験では、毎年、法改正や新規制度の創設などがあり、記憶の入れ替えが必要です。

そのため、新たな情報をどんどん既存知識の上に積み重ねていくだけでは、過去の記憶と新たな記憶が混在し、実態把握が困難になります。

法改正等が行われた時だけではなく、日頃の学習で新規に覚えた知識・情報を同じ分類箇所に収納する場合には、既存の知識・情報の確認作業も行うべきです。

そして、細かく分類した結果、収納ボックスの数が増えていくと、目の届かなくなるものも出てきます。隅のほうに押しやられ、長い間、触れられていない知識には埃がかぶり、カビが生えます。そうならないようにするには、**定期復**

習が必要です。

社会保険労務士に合格するには、整理上手にならなければいけません。

普段から整理が苦手な人は、意識的に効率の良い整理をすることを心がけてください。

## 絶対に合格できる徹底復習の具体的方法がコレ！

では、絶対に合格できる、とっておきの復習方法をお教えします。

社会保険労務士試験に合格するためには、膨大な知識・情報の吸収が必要ですが、数学のような難しい計算式などは一切、出題されません。法制度や判例など、すべてが過去に確定しているものです。

ですから、単純暗記試験なのです。俳優が台詞を覚えるように、歌手がライブの舞台で歌う曲の歌詞を覚えるように、ただ、覚えれば良いだけなのです。

テキストを勉強しただけでは、そこに記載されていた知識を覚えたかどうかを確認する術がありません。経典でもあるまいし、数百ページにわたる記述を一言一句暗記するなんて、馬鹿げています。

## 自分の能力は、問題集を解くことでしか確認できないのです！

問題集で問われる内容こそ、試験で試される本当に必要な知識なのですから、問題集を中心に学習を組み立てるべきです。

では、100 問並んでいる問題を、一気に 100 問解くのと、100 問を四分割し、25 問ずつ 4 回に分けて解くのとでは、どちらが効率的だと思いますか？

効率的というのは、記憶として残りやすいか？ということです。

絶対、25 問ずつ 4 回に分けて解いたほうが記憶として残りやすいです。俳優だって、何十行にも渡る台詞を一気に覚えることは難しいはず。数行ずつ分けて暗記するのが通常です。

それは、集中力の問題があります。集中力は記憶力と連携しています。テレビだって、集中して見ていた時のシーンのほうが、そうでない時のシーンより鮮明に覚えているはず。それは、あなたの経験からも納得いただけるはず。

では、5 時間番組と 30 分番組を見比べた時、どちらが集中力は持続しますか？

……当然、30 分番組のほうがです。

人間の集中力は 20 分程度が限界だと言われています。人間本来の脳機能を最大限、活かすなら、なるべく少ない問題数に小分けして解くべきなのです。

そして、社会保険労務士試験で学ぶ知識は非日常的な情報のため、脳の短期記憶領域に保存され、短期間で消滅していくことは先にご説明しました。

これを長期記憶領域に移行させる方法は、脳への強烈な指示しかありません。つまり、徹底的な能への刷り込み作業が必要なのです。

弊社の問題集は 1 問 1 答式になっています。本番試験の択一式問題は五肢択一式です。

しかし、五肢の中から一つの正解肢を選択する場合でも、全五肢について設問を読み、正誤判断を下さなければ一つの肢を選択できません。つまり、やっている事は 1 問 1 答なのです！！

ですが、多くの方が書店で本番試験と同じ五肢択一式問題集を使用して勉強しています。まず、こういう問題集は書き込みをしてしまったら、筆跡が残ります。一方、書き込むことをためらえば、正解できた問題なのかどうか、後から確認できません。つまり、自分の現状の力を把握できません。

また、薄ら記憶からでも、正解の肢がわかってしまったら、もはや他の肢に意識は向きません。あまり意識していなかった他の肢が、少し文章を変更され、「間違った文章」から「正しい文章」に書き換えられて、次の試験に出題されたら、どうしますか？

もう、完全なお手上げ状態です！！

こういう勉強のやり方をしている人は、10 年かかっても合格は、無理です。

弊社の問題集はパソコン上で行います（尚、学習中のネット環境は不要）。問題は Excel ファイルですので、開始前にファイルをコピー保存しておけば、何回でも新しいファイルをその都度、利用することができます。

そして、各問題シートは 5 回まで解答欄を設けてあります。

「じゃあ、5 日かけて 5 回復習すれば良いか・・・」と、思ったのであれば、アウトです！！

**1 日に 5 回(最大)やらなければ、合格なんてきません！！**

**脳に強烈な指示を送り、徹底的に知識を脳に刷り込ませることが、長期記憶領域に知識・情報を送り込む唯一の手段だからです。**

その方法は、……

同一日の同一時間帯に同一箇所を連続 3 回繰り返し、解くことです！

これにより、脳はその知識・情報があなたにとっては、重要な知識・情報であると認識します。  
そして、より**長期間の記憶保持**をしようと働き始めるのです。

「さっき解いたばかりの問題なら、解けるに決まっているでしょ！」という人がいますが、それで良いのです。  
さっきやったばかりの問題でも正解できない問題が必ず出てくるはずですよ。この発見こそがチャンスです！！

弊社の問題集は**連続 3 回正解**できた問題については、その後の**解答欄が黒く塗りつぶされ**、以後、利用できないようにプログラムされています。そうしますと、以下のような 4 パターンに分類されます。

1. 第 1 回目～3 回目の連続 3 回正解による黒塗り

5	終了 (青)	NO	本番試験はタイムトライアルです。常に時間を意識してください。1問あたり20秒～30秒（33分～50分）以内で解答します。下記設問を読み、当該設問が正しいと思う時は「1」を、間違いだと思う時は「2」を解答欄に打ち込んでください。  A・E欄の赤い点にカーソルを合わせると、解説が飛び出します。また、D欄の枠を広げると正解選択肢が入力されています。印刷する際には、必ず印刷プレビューで枚数指定してください。 *連続3回正解で解答欄は使用できなくなります。	解説	第1回 解答欄 ↓	第2回 解答欄 ↓	第3回 解答欄 ↓	第4回 解答欄 ↓	第5回 解答欄 ↓	第1回 判定 正→○ 誤→×	第2回 判定 正→○ 誤→×	第3回 判定 正→○ 誤→×	第4回 判定 正→○ 誤→×	第5回 判定 正→○ 誤→×
					2	2	2			○	○	○		
6		1	労働基準法第1条にいう「人たるに値する生活」には、労働者の標準家族の生活をも含めて考えることとされているが、この「標準家族」の範囲は、社会の一般通念にかかわらず、「配偶者、子、父母、孫及び祖父母のうち、当該労働者によって生計を維持しているもの」とされている。											

2. 第 2 回目～4 回目の連続 3 回正解による黒塗り

5	終了 (青)	NO	本番試験はタイムトライアルです。常に時間を意識してください。1問あたり20秒～30秒（33分～50分）以内で解答します。下記設問を読み、当該設問が正しいと思う時は「1」を、間違いだと思う時は「2」を解答欄に打ち込んでください。  A・E欄の赤い点にカーソルを合わせると、解説が飛び出します。また、D欄の枠を広げると正解選択肢が入力されています。印刷する際には、必ず印刷プレビューで枚数指定してください。 *連続3回正解で解答欄は使用できなくなります。	解説	第1回 解答欄 ↓	第2回 解答欄 ↓	第3回 解答欄 ↓	第4回 解答欄 ↓	第5回 解答欄 ↓	第1回 判定 正→○ 誤→×	第2回 判定 正→○ 誤→×	第3回 判定 正→○ 誤→×	第4回 判定 正→○ 誤→×	第5回 判定 正→○ 誤→×
					1	2	2	2		×	○	○	○	
7		2	労働基準法第1条第2項では、この法律で定める労働条件の基準は最低のものであるから、労働者を使用する事業主は、この基準を理由として労働条件を低下させてはならないことはもとより、その向上を図るように努めなければならないと定めている。											

3. 第 3 回目～5 回目の連続 3 回正解による黒塗り

終了 (青)	NO	<p>本番試験はタイムトライアルです。常に時間を意識してください。1問あたり20秒～30秒（33分～50分）以内で解答します。下記設問を読み、当該設問が正しいと思う時は「1」を、間違いだと思う時は「2」を解答欄に打ち込んでください。</p> <p>A・E欄の赤い点にカーソルを合わせると、解説が飛び出します。また、D欄の枠を広げると正解道筋が入力されています。印刷する際には、必ず印刷プレビューで枚数指定してください。</p> <p>※連続3回正解で解答欄は使用できなくなります。</p>	解説	第1回 解答欄 ↓	第2回 解答欄 ↓	第3回 解答欄 ↓	第4回 解答欄 ↓	第5回 解答欄 ↓	第1回 判定 正→○ 誤→×	第2回 判定 正→○ 誤→×	第3回 判定 正→○ 誤→×	第4回 判定 正→○ 誤→×	第5回 判定 正→○ 誤→×
	3	<p>労働基準法第1条は、労働保護法たる労働基準法の基本理念を宣明したものであって、本法各条の解釈にあたり基本概念として常に考慮されなければならない。</p>		2	2	1	1	1	×	×	○	○	○

#### 4. 連続3回正解できずに、黒塗りにすることができない最悪なパターン

The screenshot shows a spreadsheet application window titled "2023年度試験 労働基準法 SPM-1". The interface includes a header with the test title, a progress bar, and a table of questions. The table has columns for question numbers, correct/incorrect status, and a grid for multiple-choice answers. The interface is designed to track performance and provide immediate feedback.

25問ずつ解いていき、間違った箇所につき解説を読み、内容を理解したら、すぐに2回目を開始。同様に2回目終了と共に3回目を開始します。これで25問が終わったら、次の25問へ進みます。

こうやって、平均1日100問から200問を解くのが理想の学習ペースです。

この段階で連続3回正解できた問題は、既に理解できている問題または試験で出題されても解ける問題ですので、しばらく復習は不要です。

一方、黒塗りにできなかった設問は、あなたが一番、苦手な問題です。試験でも間違える可能性が大きい問題です。このような問題を徹底的に復習しなければいけません。

復習を万遍なくやろうとする人は試験に合格できません！！

何が不足し、何を補うべきなのか、そういった判断ができない人は、社会保険労務士の資質が無い人なのです。クライアントの要求(ニーズ)が掴めない人と判断されても仕方ありません。

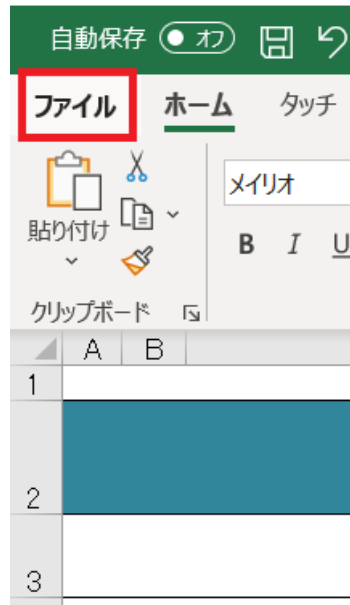
まず、黒塗りにできなかった問題だけをシート上に残し、黒塗りができた設問は、シート上から非表示にしてください。

エクセルソフトに付された各設問の一番左の枠 No 上で「右クリック⇒非表示」を選択しますと、設問が非表示になります。

残った設問の解答入力欄をドラッグし、Delete して、入力した解答を消去してください。  
以下のように「できなかった問題が隣り合う」**徹底復習ファイル**が完成します。

終了 (青)	NO	本番試験はタイムトライアルです。常に時間を意識してください。1問あたり20秒～30秒（33分～50分）以内で解答します。下記設問を読み、当該設問が正しいと思う時は「1」を、間違いだと思う時は「2」を解答欄に打ち込んでください。  A・E欄の赤い点にカーソルを合わせると、解説が飛び出します。また、D欄の枠を広げると正解選択肢が入力されています。印刷する際には、必ず印刷プレビューで枚数指定してください。 *連続3回正解で解答欄は使用できなくなります。	解 説	第1回 解答欄 ↓	第2回 解答欄 ↓	第3回 解答欄 ↓	第4回 解答欄 ↓	第5回 解答欄 ↓	第1回 判定 正→○ 誤→×	第2回 判定 正→○ 誤→×	第3回 判定 正→○ 誤→×	第4回 判定 正→○ 誤→×	第5回 判定 正→○ 誤→×
5													
	3	労働基準法第1条は、労働保護法たる労働基準法の基本理念を宣明したものであって、本法各条の解釈にあたり基本観念として常に考慮されなければならない。											
8													
	9	労働基準法第2条第1項が、「労働条件は、労働者と使用者が、対等の立場において決定すべきである。」との理念を明らかにした理由は、概念的には対等者である労働者と使用者との間にある現実の力関係の不平等を解決することが、労働基準法の重要な視点であることにある。											
14													

このファイルを保存します。保存方法は、ツールバーの「ファイル⇒名前をつけて保存」を選択し、適当な別の名前に変えて保存してください。そして、復習するときは、この保存ファイルをコピーして利用します。  
そうすれば、何度でも新しいファイルで復習が可能となります。



同様に「3 回～5 回目の連続 3 回正解で黒塗りになった復習ファイル」、「2 回～4 回目の連続 3 回正解で黒塗りになった復習ファイル」をそれぞれ作成し、**復習すべき優先順位**を決めて下さい。

弊社の問題集は、書き込みもできますし、太字、色字、色塗り、サイズ変更、アンダーライン、切り抜き、貼り付けなども自由に編集加工できます。また、調べたい語句を検索することも容易です。

なるべく早期に、得意箇所と苦手箇所を明確にした「復習ファイル」を作成すべきです。

ライバルに勝つには、一つでも多くの知識・情報の習得が求められますが、単純な詰め込み学習では、覚えた先から、どんどん忘れていきます。

どんな知識・情報が先に消えていくのか？

それは、**黒塗りにできなかった問題に関する知識・情報が真っ先に消えていきます**。続いて、黒塗りになるまでに時間のかかった問題から徐々に忘れていきます。

忘れていく可能性の高いものから優先的に復習しなければ、知識・情報は積み重なっていきません。

## 学んで然る後に足らざるを知り 教えて然る後に困(くる)しむを知る

これは、中国古典の五経の一つ「礼記」にある言葉です。人は学ぶことによって、自分に不足しているものが何なのか知ることができます。学ぶことに終局はありません。

そして、人に教えることは、学ぶことよりも2倍、3倍の労力が必要となります。間違ったことを教えてはいけなから、常に勉学に励み、常に準備を怠りません。

学ぶことで自分に不足していることを知り、教える苦しみをすることで勉学に励むからこそ、人は人として向上できるという教えです。社会保険労務士は、専門知識を有する有資格者であるが故に、時として知っている知識について、多くの方から説明を求められる職業です。

自分に不足しているものを知り、補うためには十分な準備期間が必要です。成功者とは常に準備を怠らない人です。1日も早く、学習に着手し、弱点発見と同時にその克服に務めることが、合格につながる唯一の道です。

井真井アカデミー代表 井真井 秀樹

※ お求めはこちらのサイトからお願いします。



[社労士試験 6 か月で合格/短期記憶学習/驚速 \(imai-academy.net\)](http://imai-academy.net)